

自然しらべが生物多様性を実感する機会に

皆さんからの感想をみていると、自然しらべを通して身近な川に親しみ、発見を重ねながら多くの種類のいきもの達に出会い、感動された様子が伝わってきます。また、多様な環境を利用するいきものたちの暮らしを垣間見ることが出来て、多様な自然環境の素晴らしさ、大切さを実感することができたのではないのでしょうか。ぜひこの企画をきっかけに、これからも身近な川の自然観察に出かけてみてください。

参加者の皆さんからの感想

ぼくの身近にある川にいっぱいの生物がいたのでうれしかったです。

けいちゃんさん(千葉県)



毎日見ている川なのに、改めてみると色々な発見があった。

羽生の自然を楽しむ会さん(埼玉県)

「まさか」と思う場所でハグロトンボを発見!

匿名希望さん(神奈川県)

いつも見慣れた川なのに、じっくり観察してみると、ひっそりと生きものたちがいました。

匿名希望さん(長崎県)

夏休みの自由研究に子供が川をしらべました。花や植物はあまり見つからなかったのですが、たくさん生物がいて子どもとともにびっくり感動した調査でした。

福田結希さん(岐阜県)

川にこんなにたくさんの生き物がいるとは思っていませんでした。川にはあまり入る機会がないので、たくさんの虫がいておもしろかったです。

清水中3年選択理科の皆さん(鹿児島県)

小さな川でもいっぱい自然があるんだな～

たいちさん(長崎県)

そのほか、本結果レポートに掲載しきれなかった集計結果や楽しい参加の様子は、NACS-Jのwebサイトにも掲載しています。ぜひご覧ください。

NACS-J自然しらべとは

毎年テーマ(観察対象)を1つ選び、全国で同時期に同じものをしらべる、全国一斉の環境教育プログラムです。親子や友人を誘って参加してみると、みんなで身近な場所の生物多様性に気づく機会にもなります。また、みんなでしらべることで、自然を守る大きな力にもなります。1995年にスタートし、今年で15回目。これまでのテーマは、川(1995)、海・湖沼(1996)、里やま(1997)、里やま(1999)、川(2000)、気になる自然(2001)、渚[海・湖沼](2002)、カメ(2003)、カタツムリ(2004)、10年目の川(2005)、バッタ(2006)、セミのぬげがら(2007)、カマキリ(2008)、湧き水(2009)。のべ参加者数は約54,000人になりました。

自然しらべ 2010

みんなで夏の川さんぽ

結果レポート編

●主催: 日本自然保護協会 ●共催: 読売新聞東京本社 ●協賛: サニクリーン、西日本旅客鉄道 ●紙面協賛: 『一個人』KKベストセラーズ、『ecomom』日経BP社、『edu』小学館、『旅の手帖』・『散歩の達人』・『散歩の達人ムック』交通新聞社、『Tarzan』・『クロワッサン』マガジンハウス、『日経サイエンス』日経サイエンス社、『山と溪谷』山と溪谷社 ●協力: NTTレゾナント・キッズgoo、学研教室、モンベル ●学術協力: 梶真史(厚木市郷土資料館学芸員) ●写真提供: 梶真史、志賀隆(大阪市立自然史博物館)、山本厚宏(自然観察指導員) ●アシスタント: 須田千絵・増田葵(損保ジャパン環境財団・CSOラーニング制度インターン生) ●参加者数: 2,246名 ●観察地点: 391ヶ所 ●実施期間: 2010年7/1～9/30

日本自然保護協会 NACS-J

あなたも自然を守る仲間になりませんか 会員募集中!

〒104-0033 東京都中央区新川1-16-10 ミトヨビル2F TEL:03-3553-4105 FAX:03-3553-0139 shirabe2010@nacsj.or.jp <http://www.nacsj.or.jp>

「自然保護」NO.519(2011年1月1日発行)付録

Design InterStudio inc.



自然しらべ 2010

みんなで夏の川さんぽ

結果レポート

15年前、長良川の下流を堰止める大きな河口堰が出来て運用が開始されるという出来事がありました。このことをきっかけに、川の自然を考える機会としたいと考え、1995年から5年おきに「自然しらべ」で川を取り上げ続けてきました。4回目となる今年は、これまで3回しらべてきた川の様子に加えて、昔から川原でくらすしているムシたちや、新しく海外からやってきた植物(外来生物)にも注目して、川の変化をとらえました。『自然しらべ2010 みんなで夏の川さんぽ』では、のべ2,246人の皆さんが391か所の川の様子を報告してくださいました。ご参加くださった皆さん、ありがとうございました。

共催

読売新聞東京本社

協賛

Sanikleen JR西日本

協力

NTTレゾナント・キッズgoo、学研教室、モンベル

誌面協賛

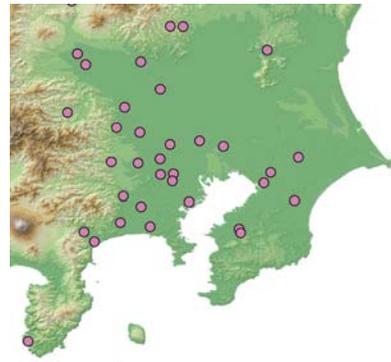
一個人 ecomom edu クロワッサン 散歩の達人 Tarzan 旅の手帖 日経サイエンス 山と溪谷

川の自然をしらべて、こんなことが見えてきました。

いきもの編

ハグロトンボが次第に復活傾向!

今回の自然しらべで注目をしたハグロトンボは、全国各地から151件の報告がありました。学術協力者の梶真史さんは、「私は、住宅地や田園地帯の中を流れ、雑排水が流入する小河川の中村川(神奈川県)で定期的に自然観察していますが、2000年頃からハグロトンボが復活の兆しを見せはじめています。今回の自然しらべでも、千葉県の小名木川や埼玉県の綾瀬川など、中村川と似通った河川からの情報がいくつもありません」というコメントをいただきました。



組頭五十夫さん(観音川・福井県)



羽生田真由美さん(黒沢川・岩手府)

ミズヒマワリ(外来生物)の最新の分布情報が!

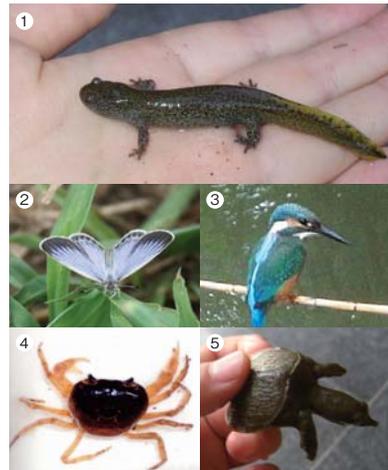
高知県の新川川からは、国立環境研究所が運営するWeb侵略的外来生物データベースのデータ更新のタイミングとほぼ同時に、今までほとんど知られていなかったミズヒマワリの最新の分布情報が届きました。全国で一斉にみんなで自然をしらべてみることで、いち早く自然の変化に関する情報を集めることができました。



写真: 坂本彰さん(新川川・高知県)

広い視点で川のいきものを発見

参加して下さった皆さんは、調査の対象にしたいいきものだけでなく、広い視点を持って自然に目を向け、各地の川の情報を書いて下さいました。その結果、水辺でくらすいきものたち(魚類、カエル類、サンショウウオ類、トンボ類、チョウ類など)の情報も、たくさん寄せられました。

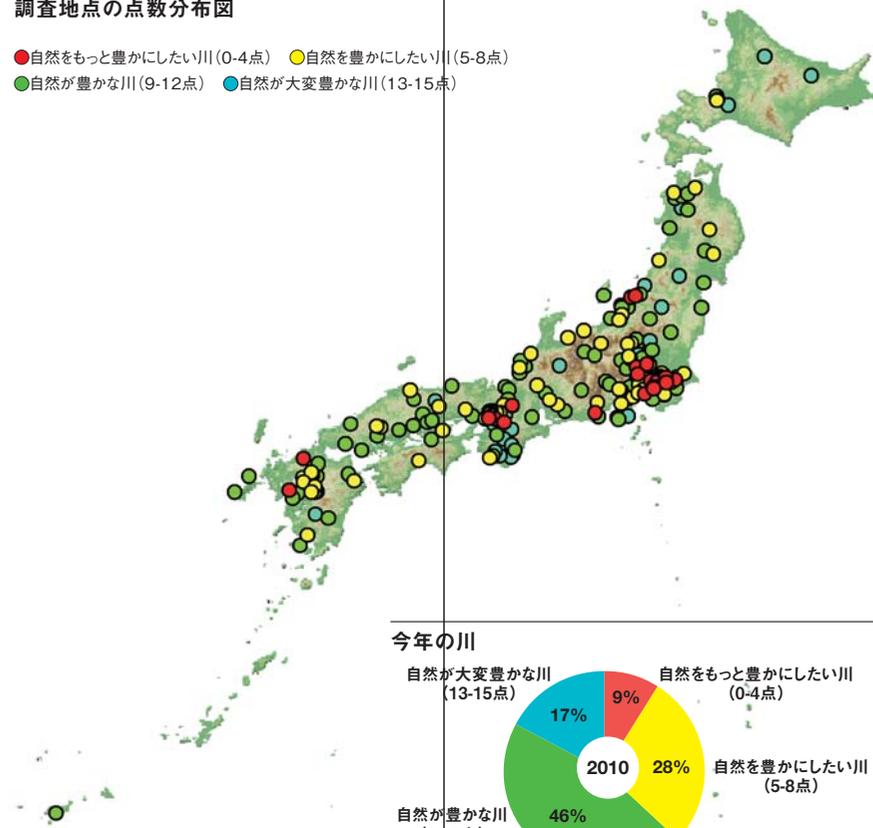


①カスミサンショウウオ
②ヤマトシジミ 大澤藍ちゃん(東京都)
③カワセミ 伊藤明さん(神奈川県)
④サワガニ 上田弘子さん(千葉県)
⑤スッポン 大崎太智さん(長崎県)

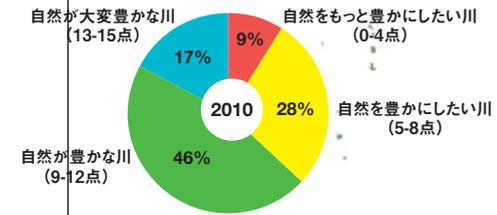
川のまわりの自然編

調査地点の点数分布図

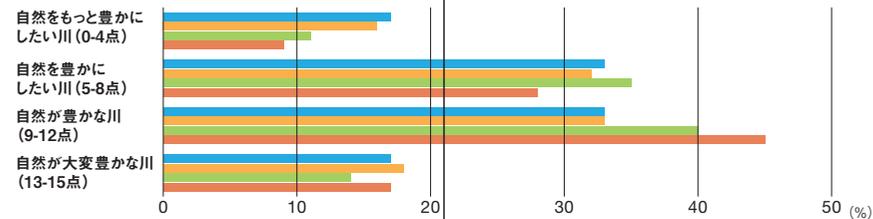
●自然をもっと豊かにしたい川(0-4点) ●自然を豊かにしたい川(5-8点)
●自然が豊かな川(9-12点) ●自然が大変豊かな川(13-15点)



今年の川



全体結果の比較(4年間の比較)



まとめ

「自然しらべ」は自然の健康診断で、全国を俯瞰しようと続けてきたものです。自然は、国によって思い浮かぶものは違い、乾燥しすぎた国でも寒すぎたり暑すぎたりする国でもない日本では、生き物を思い浮かべるのが普通。今回は夏の川が対象で、森と海をつなぐ水の通り道で、水中や水辺の生物の宿りの場で、身近にない人はいない環境でした。同じ川でも、どの場所を見たかによって

いい悪いが少し違って来る対象でしたが、以前と比べ、汚れた川は減っていることがわかり、ハグロトンボのような繊細なトンボも戻ってきていることがわかりました。簡単な調査項目でも、「みんなで見ると見えてくる」ものはあります。自然の中で楽しみながら、身近な自然の変化に気づいていただける機会をこれからも作っていききたいと思います。
横山隆一(日本自然保護協会 常勤理事)

川のまわりの自然のようすを点数化した結果、全体的に川の環境は良い方向に進んでいるようです。特に問3の「水際と川底」の様子と問4の「水のよごれ」は、過去の自然しらべに比べ、次第に点数が高くなる傾向が見られます。結果集計の会議でも、「最近、明らかに環境が悪いと思われる川が減ってきた。」などの意見が出ました。

しかしそういった中、各個別の調査票を見てみると、「子供のころよく行っていた、きれいな水が印象として残る川に出かけてみたら、川のそばに行くと生臭く、近寄ると水がきれいとはいえない状況でした。石をどかしてみても生き物は見つからなくて、とてもショックを受けました。」(Lilyさん・群馬県)など、環境が必ずしも良くなっていない地点もありました。

川のまわりのようす

